

10/31 15:10 広報班

NNA班 ← プレス対応4-1

暫定版

取扱注意 公開不可

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 10 月 31 日 (月) 11:00~11:20

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 15 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

頼内保文院  
分室到入手

配布資料：

- ・ 当社ホームページにおける当社会見のライブ配信開始説明資料

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 3号機原子炉建屋にクローラクレーンを追加することだが、これはこれまで北側にのみ設置していたものを新たに南側にも追加するという理解でよいか。

A. その通り。クローラクレーンはガレキ撤去用に設置しているが、計測器やダストサンプラーも設置できるため、今回サンプリングポイントを確認するために風速・風向データを計測する。

Q. 3号機原子炉建屋上部を片づけるために構台を組むとのことだったが、進捗状況は。

A. 建屋からぶら下がっている鉄骨類の切断作業を実施しているところであり、構台の設置はまだ着手できていない。作業開始時には改めてお知らせさせて頂く。

Q. 本日毎日新聞の1面に、東芝および鹿島が設置した休憩所が法令による放射線管理区域の設定基準を超える放射線量を計測しているにも関わらず、管理区域外になっており、当該場所で働く作業員に危険手当が支払われていないとのことだが、事実関係は。

A. 基本的に当社が工事をお願いする際には、全面マスクの着用の必要性等を含めた作業環境について確認を行った上で、保安対策費として人件費を見積もり、契約を行うことになる。報道にある危険手当が何をさすのかについては不明であるが、作業環境に応じた費用は見積もっていると考えている。契約後、元請企業がどのような形で各作業員に支払いを行っているのかについて当社は把握していない。

Q. 東電として敷地のすぐ外に報道にあるような建物が存在していることは知っていたのか。

A. 熱中症対策用の休憩所と理解している。

Q. どのような建物なのか。

A. テントハウスのようなもの。熱中症対策として冷暖房を完備しており、また建物内で飲食ができるよう、汚染が無いよう管理している。

Q. 事故前は放射線管理区域とそれ以外とに分かれていたと思うが、事故以降、どのような区域設定を行っているのか。

A. 放射線管理区域は、法令で定められる空間線量と放射物質の表面汚染率で制限されている。また、管理区域・非管理区域の境界でその旨を明示することが義務づけられている。現在は管理区域の制限を満足できる状況にないため、管理区域相当の対応を取るよう協力会社へお願いしている。

Q. 現在は法律上の区分けではなく、発電所の敷地限度という理解でよいか。

A. その通り。法律的に管理区域の境界となる空間線量と表面汚染率を満足している状況にない。各企業が事務所を設けている敷地の外についても、管理区域と同様の扱いをしていただくようお願いしている。

Q. 管理区域同等とは、タイベックやマスクを着用するということか。

A. その通り。現在、敷地境界でサージカルマスクにするか、全面マスクにするか検討をしている。

Q. 本日の報道では企業のシェルターが管理区域の外にあるように記載されていたが、間違っているということか。

A. 管理区域の設定そのものができていない状況であり、空間線量率が高いことから管理区域同等の対応が必要と考えている。

Q. 1号機の注水量の増加に伴う温度変化について、現在の評価は。

A. 注水量の増加に伴い温度低下のスピードは早くなっており、6時間で $0.5^{\circ}\text{C}\sim 0.8^{\circ}\text{C}$ 程度と注水量増加に伴う温度変化は顕著に現れている。

Q. 蒸気発生量が抑えられて圧力が下がるかと思うが、その点についてどのように考えているのか。

A. 現在、原子炉格納容器の圧力は窒素封入しているのでほぼ一定である。注水量を増加する目的は、水蒸気となって放射性物質が格納容器から放出される量を抑制することであり、現在は冷却が進んでいるため、水蒸気の発生が抑制されて窒素に置き換わっていくのではないかと考えている。最終的にはカバー内のダストサンプリングなどにより、建屋からどのくらい放射性物質が放出されているか評価したい。

Q. 1～3号機の注水量は、現状を維持して様子を見るのか。

A. 注水量については、各データを取って、圧力・温度等の傾向を見ながら格納容器の状況を評価し、判断していきたい。

Q. 2号機の水素発生源について、今のところどのようなところが想定されるのか。

A. 水素濃度が上がっているのは、放射能分解および局所的に高いところがあるのではないかと考えている。また、格納容器内の行き場がない箇所や格納容器スプレイ系や可燃性ガス制御系の配管等において吸い出せていないものもあると思われる。

4

暫定版

Q. 水素爆発によるものと放射線分解によるものとは、どちらの分量が多いのか。

A. 両方あると思われる。配管内のものは損傷燃料が発生して温度が上昇したときのものと思われるが、局所的に高いところは継続的に発生していると思われる。

以上